

第1回 食品廃棄対策委員会

平成25年2月6日(水)15:00～
JAビルカンファレンス301会議室



51の企業・団体に委員登録いただき、第1回委員会を開催いたしました。

当日は消費者庁政策企画専門官の野村様より食品廃棄の現状と課題についてお話いただき、委員会メンバーで認識の共有および課題について意見交換を行いました。

食品ロスの現状①

- 我が国では、年間約1,800万トン(平成21年度推計)の食品廃棄物が排出。
このうち、食べられるのに廃棄される食品、いわゆる「食品ロス」は年間約500～800万トンと試算されている(平成21年度推計)。
- この数量は、我が国の米の年間収穫量約813万トンにほぼ匹敵。



食品ロスの現状②

- 食品ロスの約半分は、一般家庭から排出。
- 家庭における一人当たりの食品ロス量は、一年間で約15キログラムと試算。
これは、一度の食事で食べるご飯の量を250グラムと仮定した場合、その60食分に相当。



食品ロスの現状③

- 世界に目を向けると、世界の生産量の3分の1に当たる約13億トンの食料が毎年廃棄されている。先進国で多量に発生、開発途上国は極めて少ない。
- 欧州では、食料廃棄物の半減に向けた議論が進んでおり、OECDは食品廃棄物に関する分析に着手。

